

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人に一人一人の介護を」を理念としている	○ 今後も一人一人をしっかり見つめ、その人らしさを大切に関わっていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「一人一人に一人一人の介護を」の理念をステーション内に大きく掲示しており、スタッフ全員でその実現に向けて日々取り組んでいる。	○ 今後も理念の実現に向け日々努力していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を重要事項説明書に記載しており、契約時に家族に説明している。又、運営推進会議で理念を伝え理解を得ている。	○ 広報誌で理念を伝えたり、今後も日々の活動の中で理念に向けた取り組みを行っていることを家族や地域の方々に理解してもらえよう努力していきたい。星のさと祭りや敬老祝賀会、地域の文化祭・芸能祭、運営推進会議等の場で理解を得られよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの周りは隣接の老健やりんご畑になっている。散歩に出たとき、近くの寺に出かけたとき等積極的に声をかけ挨拶する様心掛けているが、気軽に立ち寄ってもらえるようなつきあいは出来ない。近くの小学生がボランティアに来て交流を図ったことがある。	○ 散歩に出たときなど積極的に挨拶をする等を継続しながら、今後、より気軽に交流が図れる関係づくりにスタッフ皆で検討し取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の芸能祭や運動会を見に行ったり、文化祭に作品を出展する等で参加し交流している。又、地域の秋祭りには神楽が来て下さっている。隣接老健と合同の地域開放行事“星のさと祭り”に回覧板や有線放送などで声をかけ、毎年多くの地域の方に来て頂いている。	○ 今後も地域の芸能祭、文化祭等参加を続けていきたい。他に地域の活動に参加したり、交流出来る事がないか皆で検討したり運営推進会議などで話し合っていきたい。今年7月1日の星のさと祭りでは、ホームで作ったデザートや作品を利用者と一緒に販売するコーナーを設ける計画。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	在宅介護支援センター星のさとに協力してもらい、家族や地域の高齢者等暮らしに役立てる内容の介護者、介護予防教室を行っている。	○	介護者、介護予防教室は、1ヶ月に1回老健星のさとリハビリ室で行われ、リハビリ体操等が行われている。8月は「高齢者が元気である為の食事の工夫」を話し合う予定でいる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフミーティングで自己評価・外部評価の意義を皆で確認し、評価を基にサービスの向上を目指そうと取り組んでいる。又、自己評価はスタッフ一人ひとりが行っている。	○	全スタッフが自己評価を行ったことでスタッフ一人ひとりが日々のケアを見直したり、よりケアの質の向上に向けた意識アップを図ることができ、ホーム全体として自己評価・外部評価の意義・評価を基にサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回目はグループホーム星のさととはどんなところかを知ってもらい意見交換ができた。2回目は普段の生活の様子をスライドで見てもらい3回目は評価への取り組み状況を報告する予定。運営推進会議での意見交流を今後のサービスに活かしていく予定である。	○	今後も定期的開催し、話し合いの中で様々な意見を頂き、サービスの質の向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市で行われた集団指導に参加した。又、在宅介護支援センター星のさとに協力してもらい、長野市高齢者福祉課より来所し、「高齢者のための福祉施策を知ろう」を公演して頂いた。	○	サービスの質の向上に取り組む為に福祉施策を知り、次のステップアップにつなげたい。必要に応じて連携を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者もおり、スタッフ皆で学んだ。又、地域権利擁護事業の資料がホームにある。成年後見制度や地域権利擁護事業について管理者は把握しており、必要に応じてスタッフに伝えている。	○	今後も定期的にスタッフミーティングなどの場で学び、必要な支援が出来るようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3月に隣接老健と合同の職員勉強会で管理者が外部研修で学んだ認知症高齢者の権利擁護と虐待について発表し皆で学んだ。勤務の都合上参加できなかったスタッフのために資料がある。又、日々のケアの中で具体的にどの様な事が虐待になるかをカンファレンス等で話し虐待の防止に努めている。	○	今後も定期的にスタッフミーティングなどで虐待について正しく学ぶ機会を設け、スタッフ全員で虐待がないか日々虐待の防止に努めていきたい。又、外部研修に参加していきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	今後も継続していきたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	スタッフは小さな意見、不満、苦情も聞き逃さないように心掛け、必ず管理者に報告し、申し送りやカンファレンス等でスタッフ皆に伝わり、改善できるか検討をしている。あんしん相談員の意見も同様に扱っており、今後も継続していきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	これからも日々の様子を「生活状況連絡票」で報告し、必要に応じ適宜電話連絡等行っていきたい。又、金銭管理・スタッフの移動も報告をしていきたい。今年から日頃の様子が分かるような個人アルバムを作成していく予定である。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	遠慮なく意見や苦情等を表せるような関係づくりに今後も努めていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	スタッフ皆で意見等出し合い、有意義なミーティングになっている。そこでの意見や提案を日々の運営や業務に反映できているのでこれからも継続していきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	今後も状況の変化や要望等に柔軟に対応できるよう日々調整・検討を行っていきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等は必要最小限としているが、その場合、職員の性格、得意とする分野等を含め十分検討した上でやっている。	○	今後も、職員が働きやすい環境を整えたり、人材育成に努めていきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修に参加、働きながら運営者や管理者、経験豊富なスタッフ等がスーパーバイザーとして、スタッフの段階に応じた育成の取り組みを行っている。又、管理者が外部研修で事例発表を行い、認知症介護指導者の永田先生や介護支援専門員・認知症関係者等から意見やアドバイスももらいレベルアップを図ることが出来た。	○	今後も継続していきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに見学に行ったり、また他のホームからの見学を受け入れたりしている。又、研修会に参加した時など挨拶を交わし交流を図り、ネットワークづくりに努めている。又、管理者が長野圏域の会議に参加している。	○	今後も他のグループホームと交流する機会を設けたり、会議や研修に参加しネットワークづくりを行いたい。又、それを活かしてサービスの質の向上に努めていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	バレーボールや和太鼓などを企画している。又、運営者は日々の悩みなど相談にのってくれている。	○	忘年会、歓迎会、星のさと祭り、敬老祝賀会等ご苦労さん会を行い、コミュニケーションを図り、ストレスを軽減するよう努めている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の向上心、仕事に対する努力・実績は常に把握し、その結果が何らかの形（賞与の査定・手当・昇給）に結びつけられる様にしている。	○	今後も適宜な評価をし、向上心を持って働ける環境づくりに努めていきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と面談時に時間をかけアセスメントしながら話をよく聴くようにしている。本人が話す一言一言を大切に、表情や動作なども観察を行っている。	○ 今後も継続していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談→申し込み→面談→契約の段階を踏む流れの中で思いや話をよく聴くようにしている。	○ 今後も継続していきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	老健の支援相談員の経験がある管理者が、相談を受けながらアセスメントし、求められているサービスが何であるのかを考えながら対応するよう心掛けている。	○ 今後も継続していきたい。管理者が不在の時も他のスタッフが相談を受け、必要な支援が見極められるようにしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の面談等で把握した情報を基に入居前の事前カンファレンスを行い、スタッフは確認し対応している。家族とも相談しながら、本人の様子・表情を良く観察し対応している。慣れるまで居室でスタッフが2人きりでお茶を飲んだり、家族や馴染みの方と一緒に過ごしてもらうなど工夫している。	○ 今後も状態・状況に応じて臨機応変に対応していきたい。見学も随時受付けている体制を継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは知っている事も知らない振りをして、教えてもらい感謝する場面をつくったり、一緒に何かをする事で支えあったり、笑ったり、楽しい時間を共有している。	○ スタッフと一緒に暮らしている中で自立支援に向けたケアを行う意識を常に持ち、一緒に過ごす中で支えあったり、学んだり喜怒哀楽を共にした関係づくりを今後も行っていきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスと一緒に参加してもらったり、面会時等に生活の様子を伝え、家族の思いや願いを聴きながら本人らしい生活とは何かを一緒に考えていく姿勢をとっている。家族の状況等も踏まえ支えていく姿勢を伝えるようにしている。	○	音楽ボランティアに来て下さる家族もおおり、一緒に楽しい時間を共有している。行事などの案内をし、一緒に参加してもらおう等交流を深め、気軽に相談や話ができ、喜怒哀楽を共にし、今後も一緒に本人を支えていく姿勢を大切に取り組んでいきたい。今後も外出外泊の支援も行い、家族と過ごす大切な時間を共有していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴や家族の状況等の情報を基に、個別に良い関係が築いていけるよう支援している。変化した状況等は随時スタッフ皆でその情報を共有し適切な支援が出来るよう努めている。外出や外泊時には情報の提供、助言など行っている。	○	今後も継続していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友達や親戚などが面会にきている。家族等の協力を得ながら馴染みの場所に外出するなどしている。外出や外泊時は情報の提供や助言などの支援を行っている。	○	今後も継続しながら、より関係が途切れない支援を随時検討していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中で、さりげなく支え合えるような場面づくりに取り組んでいる。スタッフを交えて話をしたり、家事参加の中で支え合えるような関係づくりを支援している。ホームの中で形成された人間関係を大切に考えている。	○	車椅子を押して下さったり、食事のお盆を運んだり、お茶を入れたり、洗濯物をたたんだり、一人ひとりで出来ることを通して支えあう場面をつくっている。レクリエーションなどを通して関わりあえる場面もつくっている。今後も継続したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	隣接老健に入所された場合には、その後も本人に会いに行ったり、家族と話をする等している。	○	サービス終了時にこれからも気軽に立ち寄ったり、相談できる旨を伝えていきたい。ホーム側からも会いに行く等の関係の継続を検討していきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のケアマネジメントを取り入れ、日々の生活の中から望む暮らしに寄り添えるよう取り組んでいる。又、カンファレンスを定期的に行っている。	○	今後も継続していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に生活歴や生活環境・状態経過などの情報を収集し把握に努めている。又、入居後も生活の様子や家族等の話から把握に努めている。	○	今後も継続していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズムやできる力・できそうな力そして日々の状態を常に把握しながらさりげない支援を心掛けている。	○	できる力の発揮を最大限に活かしながら今後も継続して総合的な把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のケアマネジメントを取り入れ、介護計画を作成している。希望や意向を大切に、カンファレンスを行いながら作成している。	○	より利用者本位の介護計画となるようスタッフ皆で取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりの状態に合わせ、カンファレンス等を行いながら適宜計画を見直している。	○	今後も継続していきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやケアカンファレンスの中で、やってみたことや気付いたことを話し合ったり、個別の記録（カルテ）を通して情報を共有している。	○	今後も継続していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接老健のPTや管理栄養士などにアドバイスをしてもらっている。	○	同一法人経営の宅老所へ行かれる様考えていきたい。（宅老所の1日の利用者が定員に満たない日に）
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の構成メンバーに民生児童委員や消防団等の方がおり、必要に応じて協力を得られる体制をつくりあげている。又、近くの小学生がシーツ交換等のお手伝いに来てくれる。	○	今後も継続しながら、更に、より関係が築いていられる様な支援を随時検討していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用するまでには至っていないが、隣接老健のケアマネや在宅介護支援センターのケアマネに話をしたり、必要に応じて相談している。	○	必要に応じて連携を図り支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	南部地域包括支援センターの方が運営推進会議の構成メンバーとなっており、必要に応じて協働していく体制をつくりあげている。	○	必要に応じて協働していきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等に主治医の希望を聞き、希望の医療機関を主治医としている。実際には同じ法人の脳神経外科や医院を希望する家族が多い。日々主治医と連携を図っている。必要な医療機関に主治医を通して受診し適切な医療が受けれるように努めている。	○	今後も継続していきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同じ法人の脳神経外科院長（当法人の理事長）が認知症専門医として関わっており、日々報告や相談を行いながら支援している。	○	今後も継続していきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤で1名勤務しており、日々の健康状態・薬の管理・主治医との連携を主に行っている。隣接老健に総師長やベテランの看護師が配置されており、相談したり連携を図っている。	○	今後も継続していきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報提供を必ず行い状態や生活の様子が分かるようにしている。又、入院した早い段階で医療ソーシャルワーカーと連絡を取り、情報交換・相談・退院にむけた支援を行っている。更に直接お見舞いに行き途中経過の状態や情報の把握を行うことで退院後スムーズに受け入れられるようにしている。	○	今後も継続していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、入居中で重度化された方がおり、度重なる面談を行いながら出来るだけ家族の希望を受け入れられる様努めている。	○	面談の段階で終末期を住み慣れたこのホームでと希望が多い。具体的な指針については、重要な内容なので現在も理事長を含め主治医や家族と慎重に検討している。そして方針を皆で共有していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームとしてどこまで対応できるのか、運営者・管理者・スタッフ皆で話し合いながら見極めるようにしている。主治医とも密に連携を図るようにしている。	○	本人をとりまく家族・主治医・スタッフなどが同じ思いで重度化や終末期に向けた支援が出来るよう取り組んでいきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	隣接老健に移る際は家族も隣接という事で安心しておられた。その際、情報の提供・交換を十分に行い、本人の精神的負担が最小限であり受け入れがスムーズが行われる様努めた。	○	グループホームから別の居所へ移られた方は、他にいないが、その様な状況が発生したら十分な話し合いや情報の提供、交換を行い、本人にとってより良い対応ができる様に心掛けている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	カルテ等の記録の個人情報情報はホーム内での管理を徹底し、特別な場合を除き持ち出し禁止にしている。言葉かけや対応でも一人の人間として尊重した対応を心掛けている。	○	今後も徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々アセスメントをしながら思いや希望が表せるよう支援している。先回りの声かけやケアでなく待つ声かけやケアに取り組んでいる。難しい言葉などは使用せず本人の能力によって支援している。	○	今後も一人ひとりに合わせて自己決定や希望が表出できる場면을支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をしたいのか、どのように過ごしたいのかを常に聴くようにし、なるべく希望に沿った支援を行う様心掛けている。又、日頃の生活パターン等の情報から日々充実感を持って暮らせるよう支援している。	○	外に行きたい時に外に出て、花摘みや水くれを行ったり、居室のソファで一人過ごしたり、本を読んだり、和室で過ごしたり、希望を尊重している。今後も継続していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服を選んだり、お化粧をしている。鏡を見ながら身だしなみを整えその人らしさを大切にしている。理美容は、希望に応じて家族にも協力してもらいながら対応している。	○	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様今後も支援していきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>みんなが食事を楽しむことができるように個別に支援していきたい。盛り付け等の工夫を継続していきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>買い物と一緒にいった時に好きな物を選んで買う等をしながら今後も継続していきたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>今後も継続していきたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>菖蒲湯を実施したり、隣接老健の大浴場で入浴を楽しめるように工夫している。又、その時々気分やタイミングを常に考え、気持ちよく入浴できる様心掛けていきたい。希望する時間帯の入浴にも柔軟な対応ができる様検討していきたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>常に希望や状況、状態に合わせた安眠や休息の支援を継続していきたい。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>オルガンを弾く、本を読んで過ごす、花の水くれをする、散歩に行く、家事に参加するなど一人ひとりに応じての支援を継続していきたい。</p>

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方はいないが、希望がある場合には所持することができ、又、支援できるような体制をとっている。	○	希望があったり、できる力・できそうな力に応じた支援をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出たい時に、出かけられる様にしているが、時間帯によっては勤務体制の都合上困難な時もある。散歩や青空の下、食事をしたりお茶を飲んだり支援している。	○	毎月行事担当のスタッフが、外出を計画し花を見に行ったり動物園に行ったり寺に行くなどの支援をしている。外食も実施している。今後も継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族等の協力の下、お墓参りや外食、本人の行きたい所に行く支援を行っている。又、花見に行ったり外食に行くなどの支援も行っている。	○	一人ひとりが行きたい所などにスタッフ・家族等が協力して行けるように支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキが届いたり、希望がある時は電話をかけたり、又、電話がかかってきた時は取り次ぐ支援をしている。	○	今後も継続していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には、椅子を用意したり、お茶やお茶菓子を出してゆっくり過ごせるように気を配っている。スタッフはいつでも温かく訪問を歓迎するよう心掛けている。	○	今後も訪問時に居心地良く過ごせるよう気を配ってきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないために、なおかつリスクを軽減するためにセンサーマットを個別で使用したり、鈴を布団につけたり、ベッドではなく布団で休んでもらう等の工夫している。落ち着かない時は、スタッフと一緒に過ごしたり、巡視を多く行っている。	○	スタッフミーティングやカンファレンス等で身体拘束について学ぶ機会を設け、スタッフ全員で身体拘束をしないケアを更に取り組んでいきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	今後も継続していきたい。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	今後も継続していきたい。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	一人ひとりの状態や能力に応じた管理を行い、安全に過ごせるよう配慮していきたい。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	勉強会等も設けながら事故防止に向けた支援を継続していきたい。
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	7月に隣接老健と合同の急変や事故発生時の対応の研修（勉強会）を行う予定でいる。今後も定期的に訓練し全スタッフが対応できるようにしたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	今後も継続していきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態・状況に応じてリスクを家族等に面会時又は電話で伝え、どのように対応していくのが本人にとって一番いいのかを一緒に考えている。カンファレンスに家族等も参加してもらっている。	○	リスクを考えたケアに日々悩むことは多いが、常にその人らしさの暮らし・本人の気持ちを考え家族等と対応策を話し合っていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日血圧、体温、脈拍、排便・排尿の有無や顔色などを観察し、変化や異変の早期発見に努めている。異常がある場合には、管理者・看護師・リーダーに伝えスタッフは情報を共有し対応している。必要に応じて主治医に報告している。	○	今後も継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行っている。カルテには薬の名前と用量が記録されている。カンファレンス時には薬の把握も行っているが、全スタッフが副作用・用法など完璧に把握している段階には至っていない。全スタッフは本人のできる力に応じて服薬の支援を行い随時観察を行っている。	○	全スタッフが薬の目的や副作用などについて把握し、一人ひとりの状態に応じた服薬の支援と症状の変化の確認を行っていききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を多く心掛けたり、散歩などの適度な運動を促している。最近のカスピ海ヨーグルトをつくり、おやつに食べている。排便表で排便の確認を行い、必要に応じた排便の対応を行っている。	○	今後も継続していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりのできる力を発揮しながら口腔ケアを行っている。必要に応じて協力歯科医院の歯科医や歯科衛生士が訪問し、ケアを行いスタッフにアドバイスを下している。状態に応じて口腔ケア用スポンジガーゼを使用したり、ポリドントを使用したりと支援している。	○	今後も継続していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量記録があり、毎日カルテに摂取量を記録している。水分量は都度把握している。一人ひとり状態等を把握しながら、形態を変更したり量を調整している。隣接老健の管理栄養士が立てた献立を使用し栄養バランスに留意している。水分も好みや体調等に合わせて対応している。	○	今後も継続していきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	隣接老健と合同で感染対策委員会を設けたり、感染症対応マニュアルがある。又、隣接老健の厨房や管理栄養士からノロウイルス等について助言をもらったりしている。嘔吐物処理用のバケツや手袋、ナイロン袋、雑巾、消毒液、マスク等用意してある。	○	今後も継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板消毒を週一回行い、肉・魚の生ものはまな板では切らないようにしている。調理器具やフキンの消毒、冷蔵庫の掃除を行っている。手洗いをしっかりと行い、食材は月～土曜日の毎日配達されており、新鮮で安全な食材の使用に努めている。	○	今後も継続していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花をホームの周りに植えたり、プランターで飾るなどして温かい雰囲気づくりを心掛けている。	○	今後も継続していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンがあったりスタンドガラス、手づくりののれんを使用し、心地よい光が入るように工夫している。ホーム内に季節の花や手づくりの作品を飾っている。	○	生活感や季節感を大切に今後も工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室があり、冬はコタツを設置している。和室にはソファが置いてあり、自由に過ごせるようになっている。また、ホール以外にも椅子やテーブルが置いてある。	○	今後も状況等に合わせて工夫していきたい。

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	なじみの家具や家族の写真等を持ち込んでもら い、安心して心地よく過ごせるように工夫してい る。必要に応じて家族に持ってきてもらったり購 入している。	○	今後も継続していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度調節は、夏と冬を定時に1日4回行い、それ 以外の季節も必要に応じて温度チェックを行っ ている。各居室・ホールに温度計を設置してい る。又、換気もこまめに行っている。ゴミを溜め込ま ないようにしている。	○	一人ひとり体感温度が異なることもあるので一人 ひとりの状況・状態に合わせた支援を今後も行っ ていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム内は車椅子が使用できるスペースでバリア フリーになっており、廊下等には手すりもつい ている。入居者の状態に応じてシャワーチェアを 使用したりしている。	○	今後脱衣室の手すりの設置など検討していき たい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室は一人ひとり個別の“のれん”を使用した り、手づくりの表札で分かるように工夫。茶碗や 箸、湯飲みなど個別の物を使用し、自分の物が分 かるように工夫している。スタッフは日々の生活 の中でアセスメントをしっかり行い、一人ひとり の状態に合わせて混乱や失敗を防ぐ工夫をして いる。	○	今後も日々工夫していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ホームの外周りにはたくさんの花が植えてあり、 花を見たり摘んだり、畑では農作物を作り、畑の 水くれや草取りを一緒に行ったり、イチゴ狩り をしている。外用のテーブルを購入し、景色を眺 めたり風を感じたりしながら外で食事したりお茶 を飲んだりしている。	○	畑に行くまでの足場が良くなるよう現在法人の理 事長と相談中。今後も状態や状況に応じながら工 夫していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホーム星のさと・鶴ユニット

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① <u>ほぼ全ての職員が</u> ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① <u>ほぼ全ての家族等が</u> ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

四季を身近で感じられる山々やりんご畑に囲まれ、空気の澄んだ静かな環境の中、穏やかに一人ひとりの笑顔がいつまでも輝いて暮らし続けられる様にスタッフが支えている。管理栄養士の立てた献立により栄養バランスはしっかり考えられており、3食全て利用者とスタッフで協力して作り、又、当法人の自然農法で作られたお米を時々食べている。ホームは、平屋建ての二棟で車椅子でも十分対応出来る広さでバリアフリーとなっており、中央には中庭があり、採光が広く、射し込む光がホーム内を明るくし、火災発生時にはスプリンクラーが作動する様設置されている。尚、健康や医療面に関しては、法人内で運営する診療所の医師に診療を受けたり、相談することが出来るので安心である。日頃は、隣接の老健で行われている行事（ボランティアの方による踊りや歌）、音楽療法等に参加をし、交流の場を設けたり、老健の大浴場で入浴をし気分転換をしたり、色々な名所に出掛けたり、外食を楽しんだりしている。「一人一人に一人一人の介護を」をスローガンにスタッフ皆が日々のケアで悩むこともあるが向上心を持って和気藹々と認知症ケアに取り組んでいる。